

2008年度 人間福祉学部報

■人間福祉学部・人間福祉研究科開設記念行事

2008年5月31日（土）、関西学院大学人間福祉学部・大学院人間福祉研究科の開設を記念して、G号館101号教室にて「人間福祉学部～期待すること～こころと身体と社会をつなぐもの～」が開催されました。

この行事では、最初に柏木哲夫氏（金城学院大学長、淀川キリスト教病院名誉ホスピス長）に基調講演を行っていただきました。この中で、柏木先生はご自身の長年のホスピスにおける臨床経験などをもとに、身体の問題、こころの問題、社会の問題とともに、スピリチュアルな側面を加えて、人間をトータルにみる全人教育の重要性をお話し下さいました。そして、この全人教育をキーワードに、「人間福祉学部がよい働き、よい教育を提供することを期待しています」というエールを頂きました。

基調講演に続いては、人間福祉学部の各学科の分野を代表するパネリスト4名の方に登壇いただき、本学部教授の牧里毎治のコーディネートのもと、パネルディスカッションを行いました。社会福祉学科に関連する領域のパネリストとしては、日本社会福祉学会前会長で東洋大学社会学部長の高橋重宏氏より、「人権、社会正義を基盤としたソーシャルワーク教育」というタ

イトルで発題いただきました。社会起業学科の領域からは、ホームレスの自立支援を雑誌販売という形で支援する社会的企業である「ビッグイシュー日本」編集長の水越洋子氏より、「ホームレス自立支援の社会的企業、その事業、起業そして経営」と題するお話をいただきました。そして、人間科学科に関する領域としては、こころと身体の問題それぞれからパネリストの方に登壇いただきました。こころの領域としてNPO 法人国際ピフレンダーズ東京自殺予防センター創設者である西原由記子氏より「つながりのなかで支えあういのち」、身体の問題として筑波大学大学院人間総合科学研究科准教授の山口香氏より「自他共栄：生かし生かされる社会」と題して発題いただきました。

貴重なお話とともに、人間福祉学部および人間福祉研究科に対する期待の言葉を頂いた各登壇者の方々にはこの場を借りて心より感謝の意を表すと共に、こうした激励にそえるよう教員・職員ともに努力する所存であります。

なお、この開設記念行事の詳細については、人間福祉学部研究会の発行するもう一つの研究誌である『人間福祉学研究』の創刊号に収録しております。ぜひ、ご覧いただければ幸いです。



■社会福祉学科



社会福祉学科は、127名（男子41名、女子86名）の新入生を15名の専任教員で迎え、好調なスタートを切りました。北は北海道から南は九州まで全国から、そして海外から集まった学生たちの印象は教員によって様々ですが、「元気、明るい、にぎやか、活発」という声が多かったようです。そこで春学期に新入生を担当していただいた基礎演習の先生方よりクラスの様子を報告して頂きました。

【基礎演習教員コメント】（あいうえお順）

「大学サバイバルスキルを念頭に多くの課題をこなしていただきました。難しいレポートにもきちんと向き合われ、関学で学んでいくための基礎的なスキルを知ってもらえたのではないかと思います。その努力に感謝しています。いよいよ社会福祉学・ソーシャルワークの専門科目のスタート。学びを楽しんでほしいと切に願っています。」（池埜ゼミ）

「学生にとって初めてのゼミ形式の授業である基礎演習は、今年から関学で教えることになった私にとっても初めてのゼミ形式の授業であり、

正直申しますと、授業の方向性を模索・確認しながらの授業でした。でも、学生の積極的な参加によって、各グループの発表も充実したものとなり、ゼミ形式の授業の面白さを私自身も経験することができました。学生の皆さんの協力に感謝したいと思います。」（石川ゼミ）

「クラスの課題への取り組みはもちろんのこと、とても仲のよいアットホームな雰囲気のクラスでした。時に元気が良すぎて授業態度をいましめたこともありましたが……。留学生の学生の比率が高いクラスだったにもかかわらず、学生たち同士の結束力は強かったと自負しています。追伸：学生たちへ、サッカーボールが研究室でまっていますよ」（今井ゼミ）

「始めは大変個性的な学生が多くて、一体どうなるのかと正直心配しました。でも色々な課題に取り組む内に皆も仲良くなり、最後のグループ発表では競い合うように興味深い発表をしてくれました。パワーポイントの使い方が上手なのにもびっくり！教員としても励まされた愛すべきグループでした。」（小西(加)ゼミ）

「教員も学生もお互いに関学初体験ということで、期待に胸ときめかせながらスタートしたつもりだったのですが、教員が一人で空回りという結果に終わった印象です。おそらくどこかの時点で、学生さんを置き去りにして、私一人で疾走してしまったのだと思います。でも、それってブチギリってことなんで、意外と気持ちよかったです。が、今年は少し反省します」(杉野ゼミ)

「とても個性豊かな15人でしたが、お互いを理解しようとする気持ちと優しさが強いクラスでした。ゼミを終わった時には、クラス全員の間、深い友情が生まれて、今では皆で食事会を開いたり、同じ授業を履修したり、助け合う仲になっています。」(陳ゼミ)

「基礎演習では、関西学院大学人間福祉学部として全員が初めての出会いとなりました。各地から集まった個性的な学生が多く、楽しく演習を進める事ができました。いのちの話や福祉の話、施設見学など盛りだくさんで、キャンパス探検をできなかったのが残念でした。これからも積極的な学びを期待します。」(前橋ゼミ)

「元気が良くて、面白かった。クラスとしてまとまって、私も楽しかった。みんな、かわいいなー、という感じ。結構、課題がきつかったかもしれないが、みんな、よくついてきてくれた。課題の報告も、よく調べ、まとめていた。授業中の発言も活発だった。」(三毛ゼミ)

次にその他の講義で新入生を担当された先生方からもコメントを頂いていますので紹介します。

【その他の科目担当者コメント】

川島先生「人間関係演習」

「人と違った役割をしてほしいので、5人前に出てください…」いきなり何をやらされるんだ？という不安や緊張で始まった人間関係演習でしたが、各クラスで毎回異なるワークを体験するうちに、みんなのかかわりが広がっていきました。何気なく、楽しくやっていることが、実は人間関係や援助や福祉の深さを実感させられるものだった

たり、自分自身について思わぬ発見があったり…。実は一人ひとり、みんな違っていること、そして違っていることの価値が発見できたかもしれません。演習で学んだことをこれからもフルに活かしてくださいね。毎回のふりかえり用紙に書かれた皆さんの気づきや学びを通して、私たち教員もいろいろ学ばせていただいた半年でした。お疲れ様でした。」

中島先生「社会福祉援助技術現場実習入門」(高杉先生との合同授業)

「実習入門のクラスは各領域の社会福祉のエキスパートをゲストスピーカーとしてお招きし、またそこで実際に実習をさせていただいた学生の具体的な話を聞いてきましたが、5限という時間帯にも拘らず、全体的に大変熱心に聴けて、また興味や関心のある領域の話のときは、最後に残って直接質問をする学生もいて、前向きな姿勢を感じました。ここから始まる将来の実習、そして福祉現場への道をこの姿勢を忘れずに歩んでほしいと、エールを送りたいと思います！」

松岡先生「社会福祉学入門」

「精神保健福祉の分野と精神科ソーシャルワーカー(P S W)、精神保健福祉士の話をしましたが、そのような分野、職種、資格があるというのを初めて知った、という声が多くありました。それでも、精神保健福祉士を目指して入学したり、今回のことを契機に関心を持った人もいたようで、皆さんのこれからの学びの成果を楽しみにしています」

以上、教員の方々から頂いたコメントで社会福祉学科の雰囲気伝わったと思います。なお社会福祉学科には学部長の芝野先生、室田先生、大和先生、高杉先生という素敵な先生方もいらっしゃいます。

■社会起業学科



社会起業学科は、志が高く、やる気に満ちた92名の1期生を迎え、6名の専任教員（生田、小西砂、武田、林、牧里、山本）のもと4月にスタートしました。春学期には、学科の開設を記念して、学科生必修の「多文化共生論」の授業の枠において、世界各地で活躍する社会起業家たちを招き、以下のような連続公開講座「世界を変える社会起業家」を開催しました。

● 第1回 4月24日（木）

「大学の社会貢献：フィリピン・ピコール地方における家建築、パートナーシップ、まちづくり」（アテネオ・デ・ナガ大学、コミュニティ・アウトリーチ・プログラム、プログラム・コーディネーター／レオ・ボラス氏）

● 第2回 5月8日（木）

「ヤクを使った開発：今、中国で注目をあつめる社会起業」（Ventures in Development 創設者／マリー・ソー氏）

● 第3回 5月29日（木）

「ゼロから夢の実現に向けて」（大分トリニータ代表取締役／溝畑宏氏）

● 第4回 6月19日（木）

「若手社会起業家を育てる仕組み：社会起業家ビジネスコンテスト edge の試みを通して」（社会起業家、CSR 事業、社会貢献事業創造を支援する edge 事務局長／能島裕介氏）

上記の連続講座以外にも、社会起業学科は主催あるいは後援として以下のような様々なイベントを学生および一般の方々に提供しました。

● 7月26日（土）

「社会起業×フィリピン×海外インターンシップ」（特定非営利活動法人アイセック・ジャパンとの共催）

- 8月30日（土）
日韓社会起業家交流・シンポジウム「韓国の社会起業家が見た関西の社会起業家」(NPO 法人 edge との共催)
- 11月7日（金）
「社会起業とコミュニティ・デベロップメント：チベットからの発信」(Ventures in Development 創設者 / マリー・ソー氏、社会起業学科主催)
- 11月28日（金）
講演会「地域の福祉力、福祉の地域力の新たな担い手～ソーシャル・ビジネスへの役割期待」(株式会社田舎元気本舗 / 平野智照氏、株式会社プラスリジョン / 福井佑実子氏、関西学院大学産業研究所ほか主催、社会起業学科後援)
- 12月17日（水）
講演会「小さな政府から中福祉・中負担への転換点で考える」(読売新聞東京本社編集委員 / 青山彰久氏、NHK 解説委員 / 城本勝氏、社会起業学科主催)

その他、社会起業学科と NPO 法人宝塚 N P O センターの共催において、社会起業学科の学生を対象に連携講座「社会起業家への道—現場の声—」を開催しました。

- 10月4日（土）
有限会社 ビッグイシュージャパン訪問
概要：社内見学とスタッフへのヒアリング
講演会「社会的企業——ビッグイシューが目指す社会」(代表 / 佐野章二氏)

- 11月8日（土）
N P O 法人かものはしプロジェクト 講演会
概要：講演会
「カンボジアの児童買春に挑む若き N P O」
(共同代表 / 村田沙耶香氏)
ディスカッション
「若手社会起業家に聞く」

こうした学科提供のイベント以外に、社会起業に魅力を感じ、実際に社会問題の解決を目指し、社会起業学科の学生を中心に結成された学生団体 KG-TANK (ブログ：<http://www.hnpo.comsapo.net/weblog/myblog/448>、HP：<http://kgtank.web.fc2.com/>) が中心となり、秋季大学キリスト教週間の一環として10月13日（月・祝）に、外国人就労支援のためのカフェイベント「CASA de Asia」を宣教師館で開催し、大成功を収めました。
2009年4月には、学科の2期生とともに神野、川村、孫という3名の新たな専任教員を迎え、社会起業学科はさらに発展していく予定です。

■人間科学科



人間科学科は2008年4月2日関西学院大学入学式に女性42名、男性54名、計96名の新入生を第1期生として迎えることができました。続く学部宣誓式から人間福祉学部ならびに人間科学科の実質的なスタートとなりました。顧みると2004年度頃から関西学院大学新学部構想がおこり、検討されたさまざまな案のなかで、いくつかの紆余曲折を経て当時の社会学部社会福祉学科を母体とし、スポーツ科学・健康科学との融合を進めることとして人間福祉学部開設準備室が設立されたのは2006年4月のことです。この時点で人間科学科は人間福祉学部3学科のひとつとして正式に認知され細部にわたる検討を加えながら学科設立までの道のりを歩み出すこととなり、学内調整、文部科学省等への提出書類の作成等の作業を重ねながら課題を成果にかえていきました。人間科学科設立にかかわった人々が集いしこの場において、各人がこのころをひとつにし労苦を共にしながらおのおのもつ力を傾注したことは言を待ちません。

学科設立の理念の根幹を「こころと身体を理解」と掲げ、2007年度9月からはじまった入学試験は大学がこれまでおこなってきた既存の入試制度の

みならず、「こころ：スピリチュアリティ」に対して理解を深めることを目的とした入試制度を創設したり、新たなスポーツ関連入試の創造を念頭に置き、より多くの競技分野からの入学機会を広げたりするという大胆かつ挑戦的入試制度の採用により、広く人材を世に募った結果、北は北海道から南は九州まで全国津々浦々さらに中華人民共和国を出身とする多士済々の若者達がG号館を中心とする新しい学舎に集うこととなりました。このように人間科学科第1期生の学生達は多くの異なった才能から構成されています。古今東西の歴史を俯瞰すると異能集団の多くが伝統に刺激を与え新風を吹き込み、新しい歴史を創出してきました。我々の人間科学科に集いしもの達は、多くの希望と共に多くの困難を併せ持つ関西学院の未来に対して新たな息吹を送り込み、多様な可能性を提供できる力を秘めた学生諸君の集団ともいえるでしょう。

また、迎える側の教員は12名中6名が関西学院大学に新たに奉職された方々でした。「こどもの虐待」「こどもの精神医学」「健康科学」「高齢者福祉学」「悲嘆学」「生と死の文化人類学」等を研

究対象にした学究者にして教育者の面々です。さらに旧スポーツ科学・健康科学研究室所属教員4名は学部所属の経験がないこともあり教員側も新人？多数といえる学科スタートとなりました。上述した新たに関西学院大学に来られた先生方とともにこれまで関西学院大学に所属していた教員を加えた専門性は人間科学らしい各方面からの専門性を広く取り入れた結果でありその学問分野の裾野の広さ故、ときには誤解を招くこともあります。しかし、人間科学科のカリキュラム構成における指導原理は学科設置理念の「こころと身体理解」であることは明白であり、この理念のもと「人の生から死へのライフスパン」を横軸に「人のこころと身体」を縦軸にした座標のなかに各教員がバランス良く配置されることを目指し設計されたも

のであると詳述できます。学生諸君からは「人間科学科は楽しい」「人間科学科を選択して良かった」等の声が聞かれ学科学生間に円滑な人間関係が築かれていることが伺えます。さらに体育会活動（なかには個人や所属団体・関西学院大学体育会史における歴史的快挙・金字塔になる成果を1年生ながら記録し貢献した学生がいる）や社会的活動において早くも素晴らしい活躍が聞こえてきています。しかし、学習上の成果については若干の課題もあり、この問題解決のため事務局と協力しながら人間科学科所属教員が鋭意検討を重ねている段階であり、教員の更なる熱意を惹きつけています。ここに次年度以降の我が学科の新たな展開を誓約し、以上、人間科学科の紹介とさせていただきます。

■言語教育

一般学生用に必修科目の英語講読、英語表現の他に、第2言語として英語コミュニケーション、フランス語、ドイツ語、中国語、朝鮮語、スペイン語に加え、関学内で唯一日本手話を開講しました。また、外国人留学生用として日本語も開講しました。春学期の各第2言語及び日本語の履修者数は右の通りです。

グローバル化が進む今日において、英語はコミュニケーションツールとして必須ですが、その他の母語と異なる言語を学ぶことも、異文化理解の第一歩として大切なことです。学生の皆さんには是非引き続き積極的に学習を進めていただきたいと思います。

科目名	春学期
英語コミュニケーション I	69
フランス語 I	23
ドイツ語 I	18
中国語 I	60
朝鮮語 I	27
スペイン語 I	29
日本手話 I	89
日本語 I	8

■チャペル

日時	担当	主題 (内容)	日時	担当	主題 (内容)
4月9日(水)	嶺重 淑	「地の塩として生きる」	10月1日(水)		学部合同創立記念チャペルに合流
11日(金)	広瀬 康夫	讃美歌を歌おう①	3日(金)		ハンドベルクワイア 秋の音楽チャペル
14日(月)	広瀬 康夫	讃美歌を歌おう②	6日(月)		上ヶ原フィルハーモニック 音楽チャペル
16日(水)	前島 宗甫	「自立への招き」	8日(水)	嶺重 淑	讃美歌練習
18日(金)	ルース・グルーベル	「隣人を愛する人」	10日(金)	住野 公平	「共に喜び、共に泣く」
21日(月)		ランバスチャペルに合流	13日(月)	辻 学	「オテル・デュー(神の館)」
23日(水)		学部合同イースターチャペルに合流	15日(水)	広瀬 康夫	黒人霊歌に親しむ
25日(金)	小西砂千夫	「後の者が先になり、 先の者が後になる」	17日(金)		大学合同チャペル [第2日] に合流
28日(月)	川島 恵美	「4つの校歌」	20日(月)		ランバスチャペルに合流
30日(水)	武田 丈	「人間福祉学部第一期生 に向けて」	22日(水)		ゴスペルクワイア 秋の音楽チャペル
5月2日(金)	グリークラブ	A Song for Kwansaiを 歌おう	24日(金)	陳 礼美	「心と身体の温度」
7日(水)	聖歌隊	春の音楽チャペル	27日(月)	嶺重 淑	「出会い」
9日(金)	藤田 忠弘	「私達の命」	29日(水)		エルスマリーアンバケン “Who are you? ②”
12日(月)		ランバスチャペルに合流	11月5日(水)		上ヶ原ヒタタツ 秋の活動報告①
14日(水)		大学合同チャペル [第2日] に合流	7日(金)	杉野 昭博	「Thank youの思い出」
16日(金)	山内 一郎	「創立者ランバスの大志」	10日(月)	嶺重 淑	讃美歌練習
19日(月)	嶺重 淑	「タラントを活かして」	12日(水)	難波 幸矢	「人生のただ中で死を 突きつけられて」
21日(水)	藤井 美和	「見えないものに目を注ぐ」	14日(金)		パロックアンサンブル 秋の音楽チャペル
23日(金)	吹奏楽部	「関西学院の歌」	17日(月)		ランバスチャペルに合流
26日(月)	嶺重 淑	讃美歌練習	19日(水)	田中 昌史	「関西学院を覚えて」
28日(水)	ハンドベルクワイア	春の音楽チャペル	21日(金)		上ヶ原ヒタタツ 秋の活動報告②
30日(金)	宗教総部	邑久光明園訪問報告	26日(水)	室田 保夫	「岩橋武夫とヘレン・ ケラー」
6月2日(月)	ゴスペルクワイア	春の音楽チャペル	28日(金)		学部合同アドベントチャペルに合流
4日(水)	李 木	中国四川省大地震を覚えて	12月1日(月)	嶺重 淑	「アドベントを覚えて」
6日(金)		学部合同チャペルに合流	3日(水)	聖歌隊	秋の音楽チャペル
9日(月)	小西砂千夫	「行いによるか、信仰による か、そこが難しいところ」	5日(金)	嶺重 淑	讃美歌練習
11日(水)	上ヶ原ヒタタツ	春の活動報告	8日(月)		大学合同クリスマスチャペルに合流
13日(金)	山本 栄一	「弱さを誇ろう」	10日(水)	井手 浩	「誘われて」
16日(月)		ランバスチャペルに合流	12日(金)		上ヶ原フィルハーモニック 音楽チャペル
18日(水)	嶺重 淑	「時を知る」	15日(月)		ランバスチャペルに合流
20日(金)	打樋 啓史	「見えないものに目を注ぐ」	17日(水)	川島 恵美	「待つこと、信じること」
23日(月)	石川 久展	「主とともに」	19日(金)	嶺重 淑	「静かなクリスマス」
25日(水)	エルスマリーアンバケン	“Who are you?”	22日(月)		人間福祉学部クリスマスチャペル
27日(金)	パロックアンサンブル	春の音楽チャペル	1月7日(水)	嶺重 淑	「新年を迎えて」
30日(月)	榎本てる子	「ここにいて私を見て いなさい」	9日(金)	芝野松次郎	「『人間福祉学部のアイ デンティティ』その後」
7月2日(水)	嶺重 淑	テゼ共同体のうた	14日(水)		学部合同震災メモリアルチャペルに合流
4日(金)	山 泰幸	「受け入れる心と受け 入れられる心」			
7日(月)	松岡 克尚	「橋の哲学を目指して」			
9日(水)	河鱈 一彦	「夏休みを前にして」			
11日(金)	芝野松次郎	「人間福祉学部のアイデ ンティティ」			
9月26日(金)	嶺重 淑	「そうになりたい自分と そうである自分」			
29日(月)	窪寺 俊之	「愛と死」			

* 上記のように、今年度の人間福祉学部では、春学期40回、秋学期38回、計78回のチャペルを実施した。今年度は初年度ということもあり、当初、チャペル運営に関しては戸惑うことも多かったが、幸い、大きな問題もなく年間スケジュールを終えることが出来た。特に秋学期からは、毎回の出席者の感想等を掲載した学部独自の「チャペル週報」を作成・配布できるようになり、チャペル運営の体制も整ってきた。来年度は、今年度の反省を踏まえ、さらに充実したチャペルプログラムを提供できるように努めていきたい。

■諸行事

◆人間福祉学部・研究科開設記念行事

(詳細は p.83を参照)

日 時：2008年5月31日(土) 13:00～16:30

場 所：G号館101号教室

【開設記念シンポジウム】

講 師：柏木 哲夫 氏

(金城学院大学長・

淀川キリスト教病院名誉ホスピス長)

テーマ：人間福祉学部に期待すること

～こころと身体と社会を繋ぐもの～

【パネルディスカッション】

高橋 重宏 氏

(東洋大学社会学部長・

日本社会福祉学会前会長)

西原由記子 氏

(NPO 法人国際ピフレンダーズ

東京自殺防止センター創設者)

水越 洋子 氏

(The Big Issue 編集長)

山口 香 氏

(筑波大学

人間総合科学研究科准教授)

◆Dean's Brown Bag (ブラウンバッグの集い)

学生と学部教員との親睦を図るため、次のとおりランチ・ミーティングを実施しました。

①第1回

日 時：2008年7月7日(月) 12:45～13:25

場 所：G号館3階ロビー

②第2回

日 時：2008年12月8日(月) 12:45～13:25

場 所：G号館3階 共同研究室

◆講演会

『日本のエイズ—全国インターネット調査から見た性的指向と健康問題 予防行動の現状と社会福祉の最前線』

日 時：2008年10月20日(月) 15:10～16:40

場 所：G号館301号教室

講師・テーマ：

日高 庸晴 氏

(関西看護医療大学看護学部講師)

「H I V感染の疫学的状況

—性的指向と健康問題—」

榎本てる子 氏(神学部准教授)

「H I V陽性者とスピリチュアルペイン

—H I Vカウンセリングの現場から—」

小西加保留 氏(人間福祉学部教授)

「H I V感染症と社会福祉の接点」

司 会：武田 丈 氏(人間福祉学部准教授)

■人間福祉学部研究会

第1回 2008年5月28日(水)

芝野 松次郎 氏 (人間福祉学部教授)

「ソーシャルワーク実践における開発的研究
について」

第2回 2008年6月25日(水)

Els-Marie Anbäcken 氏 (人間福祉学部教授)

「Institutional homes for older people-
a transit hall to life's last journey?

Existential issues in care contexts from
residents', families' and staffs' perspectives.

Lessons from a research and development
project in a Swedish municipality」

林 直也 氏 (人間福祉学部専任講師)

「みるスポーツを考える」

第3回 2008年10月22日(水)

陳 礼美 氏 (人間福祉学部准教授)

「高齢者とロングタームケア：アメリカの高
齢者の転居、住居環境、そして健康」

中野 陽子 氏 (人間福祉学部准教授)

「第二言語における関係節付加曖昧構文の処
理に影響する要因」

第4回 2008年11月26日(水)

井出 浩 氏 (人間福祉学部教授)

「発達障害をとりまく諸問題」

藤井 美和 氏 (人間福祉学部准教授)

「『死』を受け止めなおす意味」

いずれも時間は17:30～18:30、G号館2階
会議室5にて開催。